

行事予定 (2015年)

- 11月11日(水) 臨床検査の日(日本衛生検査所協会:平成27年度臨床検査普及月間大会、日本臨床衛生検査技師会:全国検査と健康展共催予定)
- 11月19日(木) 第3回全国幹事会
平成27年度第2回総会・講演会
- 11月20日(金) 共催シンポジウム
- 11月21日(土) 第4回臨床検査を学ぶ若手医師の集い
- 12月19日(土) 第3回常任幹事会
(現常任幹事会と次期常任幹事会を同時開催)

巻頭言

日本臨床検査専門医会
全国幹事 松永 彰

共用基準範囲ってなんだ？

臨床検査の基準範囲が話題になっています。先日も開業医の後輩から「最近、臨床検査の基準範囲が変更になったようだが、何がどう変わったか説明が全くないので判らない。」と問い合わせがありました。今までは、臨床判断値と基準範囲を区別せずに基準範囲としていたものが、区別されて記載されるようになったのだと以下のような説明をしました。

基準範囲とは、検査を判断する際の目安となる(一定の基準を満たす)健常者の測定値の分布の中央 95%の区間を指します。ただし、これはあくまでも検査を判断する際の単純な目安であり、この基準範囲に入っていれば将来も安心、疾患になりにくいといった基準ではありません。疫学的研究などから将来健康障害の発症が予測され、予防医学的見地から一定の対応が要求される検査閾値は、臨床判断値(予防医学基準値)と呼ばれ診断に利用されます。糖尿病や脂質異常症などの基準値は臨床判断値として、今まで通り診断に用いられます。

また、現在我が国では医療機関毎に基準範囲がバラバラですが、医療機関の連携に関連して検査情報の共有化が望まれています。これに応じて日本臨床検査標準協議会(JCCLS)が、3種類の健常者の大規模調査データ(国際臨床化学連合アジア地区調査、日本臨床衛生技師会の多施設共同調査、福岡県5病院会による多施設共同調査)を基に40項目について日本全国で共通利用可能な基準範囲として、共用基準範囲を提案しました。この共用基準範囲は、既に大規模医療機関をはじめとして利用が始まっており、全国に広がれば医療連携の検査情報共有化に役立ちそうです。

開業医の後輩は、ある程度納得してくれましたが、基準範囲(共用基準範囲)と臨床判断値については、ベテラン医師を中心に繰り返し説明して理解を得たいと考えています。

【目次】

- p.1 巻頭言：共用基準範囲ってなんだ？
- p.2 事務局からのお知らせ、第32回臨床検査専門医認定試験結果、平成27年度第一回総会報告、第5回生涯教育講演会報告、第25回日本臨床検査専門医会春季大会報告、第32回臨床検査振興セミナー報告、平成28年度第26回春季大会のお知らせ、平成29年度第27回春季大会について
- p.3 (表)平成26年度会計報告、第47回日本臨床検査専門医会総会・講演会のお知らせ、共催シンポジウムのお知らせ、第4回臨床検査を学ぶ若手医師の集いのお知らせ
- p.4 「全国検査と健康展」協力について、平成27年度行事予定、平成27年度会費振込みのお願い、住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について、第32回臨床検査振興セミナー報告
- p.5 会員の声：臨床検査専門医試験を受験して、臨床検査専門医会に参加して
- p.6 会員の声：臨床検査医と感染制御、編集後記

会員の皆様へ

広く「会員の声」を募集しております！
テーマは自由、文字数も自由です。
是非ともご意見をお寄せください。

【テーマの例】

- ・自己紹介や検査室のご紹介
- ・様々な技術・ご経験のご紹介

投稿方法：日本臨床検査専門医会事務局まで、メールにてお送りください。
E-mail: senmon-i@jaclap.org

ご寄稿をお待ち申し上げます。

JACLaP NEWS 編集室 増田 亜希子(編集主幹)

〒113-8655 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学医学部附属病院 検査部内

TEL: 03-3815-5411 内線 37477/Fax: 03-5800-8806

E-mail: amasuda-ky@umin.ac.jp

【事務局からのお知らせ】

《会員動向》

2015年9月15日現在数751名、専門医608名

《新入会員》（敬称略）

井上 健：大阪市立総合医療センター病理部
松原亜季子：防衛医科大学校病態病理学講座

《所属・その他変更》（敬称略）

高橋 伯夫：旧 関西医科大学臨床検査医学講座
新 幸生会 琵琶湖中央病院 病院長

溝渕 光一：旧 労働者健康福祉機構 香川労災病院検査科
新 香川県立中央病院病理診断科

宮崎 彩子：旧 大阪医科大学総合医学講座
臨床検査医学教室
新 兵庫医科大学臨床検査医学講座 准教授

佐守 友博：旧 株式会社 日本医学臨床検査研究所
新 株式会社 日本食品エコロジー研究所
代表取締役社長

登 勉：旧 三重大学大学院医学系研究科
新 小山田記念温泉病院

清水 道生：旧 埼玉医科大学国際医療センター病理診断科
新 博慈会記念総合病院 病理診断センター

《退会会員》（敬称略）

小林 正之：

【第32回臨床検査専門医認定試験結果】

平成27年8月1日(土)、2日(日)に、日本臨床検査医学会主催の第32回臨床検査専門医認定試験が東京大学で行われ、16名が合格いたしました。合格者は全員本会会員です。合格おめでとうございます。今後のご活躍を期待します。

(50音順/敬称略)

青木 智之、浅香 志穂、五十嵐 岳、井上 貴子、
宇野 直輝、上岡 樹生、久川 聡、島尻 正平、
千葉 泰彦、辻 剛、正木 充、三好 夏季、
茂久田 翔、野内 英樹、山口 勇人、渡邊 淳

【平成27年度第一回総会報告】

第25回日本臨床検査専門医会春季大会時に平成27年度第一回総会が開催されました。

日時：平成27年6月27日(土)

会場：東大寺総合文化センター 金鐘ホール

審議事項

第一号議案：平成26年度決算について(別表[次頁])

第二号議案：平成27年度補正予算について
本年度事業経費にネットワーク開発経費
(追加分)1,417,000円を追加する。

第三号議案：平成27年度会長・監事選挙について

第四号議案：平成29年度第27回春季大会について

大会長として国際医療福祉大学熱海病院
メ谷直人教授が推薦されました。

第一号から第四号議案はすべて承認されました。

報告事項

1. 各種委員会報告
2. 臨床検査医学会学術集会関連行事
3. 第26回春季大会について
4. 日本専門医機構 臨床検査医学領域委員会から

【第5回生涯教育講演会報告】

平成27年6月27日(土)、東大寺総合文化センターにて第5回生涯教育講演会が開催されました。「残余検体は誰のもの？ 検査業務・研究と倫理のはざま」について日本臨床検査医学会倫理委員会委員長 通山 薫先生に、「文化財を探る・伝える科学と技術」について奈良県立橿原考古学研究所 奥山 誠義先生にご講演いただきました。110名を超える会員の先生にご参集いただき盛会のうちに終了しました。

【第25回日本臨床検査専門医会春季大会報告】

第25回日本臨床検査専門医会春季大会は、松尾収二大会長のもと平成27年6月27日(土)～28日(日)、東大寺総合文化センター金鐘ホールにて開催されました。話題の「検体測定室」についての特別講演をはじめ、各専門領域の最新の話題についての講演、「研修医・若手臨床検査医が育つための仕組みづくり」についてのパネルディスカッションなど充実したプログラムで、活発な討議が展開されました。多数の参加者があり、盛会のうちに終了しました。

【第32回臨床検査振興セミナー報告】

第32回臨床検査振興セミナーは、平成27年7月17日(金)東京ガーデンパレスにて開催されました。詳細は別途記事をご参照下さい。

【平成28年度第26回春季大会のお知らせ】

大会長：杉浦 哲朗先生

(高知大学医学部病態情報診断学 教授)

期 日：2016年(平成28年)3月25日(金)、26日(土)

会 場：春季大会：高知市文化プラザかるぽーと、

関連行事：ホテル日航高知

【平成29年度第27回春季大会について】

大会長：メ谷 直人先生

(国際医療福祉大学熱海病院臨床検査科 教授)

期 日：2017年(平成29年)2月24日(金)、25日(土)

(予定)

会 場：静岡県熱海市(予定)

平成26年度 会計報告

26年		項目	予算額	決算額	予算と決算の差
収入	会費	会員会費	6,670,000	5,353,000	-1,317,000
		賛助会員会費	3,900,000	4,300,000	400,000
		雑収入	0	0	0
		小計	10,570,000	9,653,000	-917,000
	その他	広告収入	400,000	251,626	-148,374
		教育セミナー参加費	500,000	370,000	-130,000
		生涯教育講演会参加費	100,000	96,000	-4,000
		振興セミナー参加費	100,000	144,000	44,000
		利息	15,000	2,300	-12,700
		小計	1,115,000	863,926	-251,074
入金合計		11,685,000	10,516,926	-1,168,074	
支出	庶務経費	事務局雑費	150,000	119,821	30,179
		通信費(事務局)	170,000	120,605	49,395
		人件費	1,400,000	1,166,620	233,380
		FAX使用料	60,000	58,802	1,198
		会員登録	10,000	0	10,000
		事務所維持費	1,700,000	1,704,823	-4,823
		設備費	150,000	85,580	64,420
		小計	3,640,000	3,256,251	383,749
	事業	印刷代	2,000,000	1,299,658	700,342
		要覧印刷代	550,000	0	550,000
		通信費	1,000,000	632,738	367,262
		春季大会補助金	500,000	500,000	0
		臨床検査振興セミナー費	900,000	804,744	95,256
		教育セミナー費	850,000	573,951	276,049
		会議費	1,000,000	968,967	31,033
		交通費	70,000	108,650	-38,650
		宿泊費	20,000	20,000	0
		原稿料	100,000	60,000	40,000
		専門医ネットワーク開発費	1,270,000	0	1,270,000
		HP維持費	170,000	128,498	41,502
		JCCLS会費	50,000	50,000	0
		WASPALM会費	45,000	49,516	-4,516
		臨床検査振興協議会	300,000	300,000	0
		内保連	100,000	200,000	-100,000
		予備費	390,000	0	390,000
		小計	9,315,000	5,696,722	3,618,278
		経費	出金合計	12,955,000	8,952,973
	収支決算			1,563,953	
	前年度繰越金			17,237,176	
次年度繰越金			18,801,129		

【第47回日本臨床検査専門医会総会・講演会のお知らせ】

第62回日本臨床検査医学会学術集会に合わせ、第47回日本臨床検査専門医会総会・講演会が開催されます。新システムの紹介がありますので多数の会員の参加をお待ちしています。

日時：2015年11月19日(木)

総会 13:30~14:00、講演会 14:00~15:00

会場：長良川国際会議場第1会場(さらさーら)

講演会プログラム

司会：佐守 友博先生(日本臨床検査専門医会 会長)

演題：「専門分野別 Q&A システムを中心とした臨床検査専門医ネットワークシステムについて」

演者：宮崎 彩子先生(兵庫医科大学臨床検査医学)

河野 誠司先生(神戸大学医学部臨床検査医学)

【共催シンポジウムのお知らせ】

第62回日本臨床検査医学会学術集会におきまして、当会との共催シンポジウムが開催されます。多数の会員の参加をお待ちしています。

日時：2015年11月20日(金) 14:20~16:20

会場：長良川国際会議場第2会場

テーマ「ヘルスケアに拡大する臨床検査の現状と課題：臨床検査の専門家としてどう向き合うか」

司会：宮地 勇人先生

(東海大学医学部基盤診療学系臨床検査学)

菊池 春人先生

(慶應義塾大学医学部臨床検査医学)

演者：岡 尚人先生

(ラジオメーター株式会社営業企画部)

菊池 春人先生(慶應義塾大学医学部臨床検査医学)

諏訪部 章先生(岩手医科大学医学部臨床検査医学講座)

♪谷 直人先生(国際医療福祉大学熱海病院 臨床検査科)

宮地 勇人先生(東海大学医学部 基盤診療学系臨床検査学)

【第4回臨床検査を学ぶ若手医師の集いのお知らせ】

第62回日本臨床検査医学会学術集会におきまして、日本臨床検査医学会教育委員会主催、日本医師会ならびに当会共催による「臨床検査を学ぶ若手医師の集い」が開催されます。臨床検査に興味を持っている学生、臨床検査専門医の取得をめざす医師または取得に興味を持つ医師、専門医を取得して間もない医師の参加をお待ちしています。

日時：2015年11月21日(土) 19:00~21:00

会場：第5会場(岐阜都ホテル)軽食付き

【「全国検査と健康展」協力について】

11月11日(水)「臨床検査の日」に合わせて11月を中心に開催される「全国検査と健康展」(日本臨床衛生検査技師会主催)で、本年度も「検査説明・健康相談」への協力を行います。JACLaP WIRE、メールでの協力要請に多数の先生方にお答えいただき、本年度は10月11日～11月29日まで21会場にのべ41名の臨床検査医をボランティアとして派遣する予定です。ご協力ありがとうございます。次年度もより多くの先生のご協力をお願いいたします。

【平成27年度行事予定】

平成27年度日本臨床検査専門医会の残りの行事予定をお知らせいたします。

開催日時、場所の変更が生じる場合があります。変更があり次第JACLaP WIRE、JACLaP NEWSでお知らせします。その都度ご確認ください。

平成27年

11月19日(木) 第3回全国幹事会

(長良川国際会議場第2会議室、10:30～11:30)

11月19日(木) 平成27年度第2回総会・講演会

(長良川国際会議場)

11月20日(金) 共催シンポジウム(長良川国際会議場)

11月21日(土) 第4回臨床検査を学ぶ若手医師の集い

(長良川国際会議場)

12月19日(土) 第3回常任幹事会

(現常任幹事会と次期常任幹事会を同時開催、
日本臨床検査医学会事務局)

【平成27年度会費振込みのお願い】

平成27年度の会費振込用紙をお送りしましたので振込をお願い致します。尚、未納分のある会員の方々は合計額の振込をお願いします(納入状況は振込用紙に記載してあります)。

なお、平成25年度より、満70歳以上の正会員の年会費は、5千円となりました(平成24年11月29日 会則改定)。

平成27年度年会費：1万円

平成27年度年会費(平成27年1月1日現在、
70歳以上の方)：5千円

郵便振込み口座：00100-3-20509

加入者名：日本臨床検査専門医会事務局

ご自身の振込み状況が不明な先生は、事務局までE-mailまたはFAXでお問い合わせください。

過去2年間会費を滞納している先生には、Lab CP、JACLaP NEWS、要覧の発送を停止いたします。悪しからずご了承下さい。

【住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について】

住所・所属の変更にもなって定期刊行物、JACLaP WIRE、電子メールなどの連絡が届かなくなる会員がいます。勤務先、住所およびE-mail address等の変更がありましたら必ず事務局までお知らせ下さい。変更事項はホームページから【会員

情報変更届】をダウンロードしてそれに記載し、FAXあるいはE-mailでお送りください。

<連絡先>日本臨床検査専門医会 事務局

(水・土日祝祭日は休業日)

電話・FAX：03-3864-0804

アドレス：senmon-i@jaclp.org

【第32回臨床検査振興セミナー報告】

第32回臨床検査振興セミナーは、平成27年7月17日(金)、東京ガーデンパレスにて開催されました。今年度は近年取得施設が急増しておりますISO 15189認定を主題に「ISO 15189の動向について」を日本適合性認定協会認定センター 下田勝二参事補に、「ISO 15189の認定を取得して」を慶應義塾大学病院臨床検査部 柴田綾子技師長にご講演いただきました。また、東京医科歯科大学 医療イノベーション推進センター長・医学部附属病院臨床試験管理センター長 小池竜司教授に「治験における臨床検査～質保障と今後の課題～」についてご講演いただきました。賛助会員、正会員等合わせて約70名の参加者があり、活発な討議が展開されました。



(渉外委員会委員長 小柴 賢洋)

【会員の声】

臨床検査専門医試験を受験して

はじめまして。神戸大学医学部附属病院検査部の三枝淳と申します。私は大学卒業後より臨床免疫学を専門として膠原病リウマチ内科医として活動しておりました。しかし、これまで直接ご指導いただいた熊谷俊一先生、小柴賢洋先生、そして現在の直属の上司である河野誠司先生、森信暁雄先生といった先生方全員が臨床検査専門医であるという特殊な(?)環境で過ごしてきたため、臨床検査専門医の資格のことは常に頭の中にありました。

会員歴が5年となった時期がちょうど海外留学と重なったこともあり受験は先延ばしになっていたのですが、このたび2014年1月より神戸大学医学部附属病院検査部の副部長を拝命いたしましたので、いよいよ臨床検査専門医の資格を取得しなければならない状況となりました。急いで準備にとりかかりましたが、私は日々検査部の教員として学生講義・実習や管理業務を行っているため、多彩なバックグラウンドの受験生の中では受験勉強はやりやすい方であったと思います。

臨床検査専門医試験の受験を終えた直後の私の率直な感想は、「何というあたたかい試験なのだろう」というものでした。2日間にわたる試験、特に2日目の実技試験は非常に労力も時間もかかる試験でしたが、時間配分や受験者の移動などが極めて効率的に行われており、また試験官の先生方は皆厳しさの中にも優しさにあふれており、試験で審査される立場でありながら大きな心地よさを感じた2日間でした。あたたかい、という表現は些か失礼ではありますが、臨床検査医学会の素晴らしさを実感いたしました。

上で特殊な環境と書きましたが、大学卒業時に膠原病リウマチ内科医を志した私は神戸大学免疫内科に入局しました。当時同科を主宰されていた熊谷先生が臨床検査医学講座教授/検査部長を務めておられたので、研修医時代から臨床検査医学という学問分野に関わり、また多くの検査技師と交流する機会を与えていただきました。そこで神戸大学の検査部には極めて優秀な検査技師が多く在籍していることを知り、大学院生時代にはそのような技師達と一緒に勉強会や実験を行いました。現在の林伸英技師長は私の学位論文の共著者です。

その後、関連病院への赴任や留学などを経て、今回また臨床検査医学講座/検査部に戻ることができて、大変光栄に思っております。神戸大学検査部は、私が研修医であった当時から技師の研究活動が盛んでありましたが、現在も日常業務を終えた後や休日にマウスや細胞の実験を行って論文執筆を目指している検査技師が何名もおります。彼らのような研究志向の強い技師をしっかりと育成して、神戸大学検査部のさらなるレベルアップにつなげたいと思います。

受験して改めて感じましたが、臨床検査医学がカバーする学問領域は非常に広いです。受験するまでは、検査部で仕事をしていても循環器専門医の超音波検査に関する知識や感染症専門医の微生物検査に関する知識などについては全くかわらないのでやや引け目を感じていたのですが、専門医の資格を取得してからは、「私は臨床検査のジェネラリストなのだ」と自らに言い聞かせることにより、検査部での居心地もよくなりました。

まだまだ未熟な専門医ですが、今後しっかりと研鑽を積み、臨床検査医学の発展に少しでも貢献できるよう努力いたします。専門医会の先生方には、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。最後に、今日までご指導いただいた上記

の先生方に深謝申し上げます。

(神戸大学医学部附属病院検査部 三枝 淳)

臨床検査専門医会に参加して

2013年に臨床検査専門医会に入会させていただきました。今回、会報への執筆の機会をいただき、これまで御指導いただいた先生方と検査部にて実際に業務の御指導をいただいた臨床検査技師の皆さまに改めて深謝申し上げます。

これまでは代謝内科医として診療に従事する場面が多く、臨床検査の現場は全く未知のものでした。しかし、本会に所属させていただくことで多くの知識を得ることができました。特に有益であったものとして、毎回の会報を配信いただくことや教育セミナーに参加できたことが挙げられます。会報では、臨床検査医学の将来像や問題点、病院臨床検査部の現状と改善点など、内科医として普段は知り得ない幅広い知識を得ることができました。教育セミナーでは、精度管理、感染症、血液学・骨髄像、一般生化学など、これまで代謝内科としての診療のみで、あまり深く関わることのできなかった分野の知識を整理し、学ぶことができました。短時間で臨床検査医学の概要を網羅できること、実技は動画で学習できることなどの利点があり、今後もぜひ参加し、知識を継続させていきたいと思っています。

さて、私が所属する順天堂大学は、1838年(天保9年)に設立されたオランダ医学塾に由来する日本最古の西洋医学塾です。2009年に創立175周年を迎え、お茶の水地区を中心に病院の再編がすすめられています。学祖である佐藤泰然により創設され、現在、第九代堂主の小川秀興理事長のもと、「不断前身」の理念を持ち、学是は、「人在りて我在り、他を思いやり、慈しむ心。これ即ち『仁』」として知られます。医学部のほか、スポーツ健康科学部、医療看護学部、保健看護学部からなる総合健康大学として医学と医療に携わり、2015年からは国際教養学部が新たに加わっています。健康総合大学・大学院大学として、我々も教育と医療の一翼を担うべく、努力していきたいと思っています。

本学の臨床検査医学講座は、小酒井 望 教授のもとで臨床病理学講座として1961年に発足しました。2008年より三井田 孝 教授へと引き継がれ、連続して存続する講座としては、日本で最も長い歴史を持ちます。2006年に臨床検査医学講座に改称され、感染症、血液学、臨床化学などの複数の専門性を兼ね備える講座として、学生教育、医学研究、病院診療業務にあたっています。研究面では、三井田教授を含め、教官9名、修士学生2名で個々の専門性を生かし、全体でリサーチミーティングを行い、研究の進展と内容の向上をはかっています。研究テーマは幅広く、臨床検査の精度管理、生化学パニック値の臨床的有用性の検討、緑膿菌に対する各種抗菌薬の感受性の検討、血液自動分析装置DM96による血液細胞判定や体液組成分析の検討、フローサイトメトリー検査を用いた血液疾患診断に関する研究、各種ステロールマーカ測定法の確立、LDLコレステロールおよびトリグリセリド測定法の標準化の検討、非変性2次元電気泳動を用いたHDL亜分画の機能解析、アルツハイマー病におけるLDL受容体ファミリーの臨床的意義の検討、などがあります。2013年の英文誌への発表は12報、2014年は15報です(12月現在)。2015年から修士学生2名が新たに加わっており、学外研究員との協力や学内での共同研究をすすめながら、より質の高い研究を目指していきたいと思っています。今後も教育、診療、研究を充実できるよう、引き続き、専門医会の先生方には御

指導いただけますようよろしくお願い申し上げます。

(順天堂大学医学部臨床検査医学 平山 哲)

臨床検査医と感染制御

この度臨床検査専門医として名簿の末尾に加えて頂くことが出来ました山梨大学の井上修と申します。執筆の機会を頂きましたので、自己紹介を兼ねて現況報告などさせて頂きたいと思います。

私は 1996 年に山梨医科大学を卒業したのち 5 年の間、関東通信病院に於いて呼吸器内科医としてのトレーニングを受けてまいりました。当時の常で病院に住まうような生活ではありましたが、現在の私の度合を作る貴重な時間だったと感じています。続く 2 年 6 ヶ月は海外で勉強する機会を得て、基礎研究に打ち込み学位取得に繋げることが出来ました。所属する医局を持たずに出国したため帰国しても働く宛がなく困っておりましたが、このような状況の私を医員として受け入れて下さったのが山梨大学大学院医学工学総合研究部臨床検査医学講座(医学部附属病院検査部)の尾崎由基男教授です。勤務開始に際して頂いた主な任務は、血栓止血領域の基礎研究に加え、呼吸器感染症の知識を活かした「病院感染対策活動(infection control team 活動 : ICT 活動)」の 2 つでした。検査部は微生物検査室を運用しており、検査部(臨床検査医学)がこの領域に積極的に関わる事は病院の安全管理上(感染対策上)不可欠だ、という尾崎教授の先見の明の現れだと感じます。しかし ICT 活動への医師の参加は検査部としては初めての試みであり、どのように関わってゆくべきか手探り状態での再スタートとなりました。

当院では 2002 年より感染対策認定看護師が在籍し、看護師を中心とした ICT 活動が開始されていました。環境整備と各種感染予防策による感染拡大の抑制を核とした取り組みであり、ここに医師としてどのように関わるのか、自問自答の日々が続きます。書籍を買いあさり、講習会などに参加し、ひたすら情報収集です。その後約 10 年にわたり取り組んだことに、検査部微生物検査室付けの医師として耐性菌検出状況の把握、アウトブレイクに際して病棟内での多剤耐性菌の伝播状況の調査と解析、MDRP など特殊な管理が必要な症例の管理治療について主治医とディスカッションなどがあります。このような活動を通じて、検査部や薬剤部、看護部などの多職種のスタッフと共同してうまく活動して行くノウハウを学ぶことが出来たように思います。

当院では 2013 年 4 月になり、やっと感染制御室にも専任医師が配置されることになりました。病院長からの要請に対して尾崎教授から適任者としてご推薦頂いたのは光栄なこと、

喜んで承諾し現在のポジションで仕事を行うこととなりました。しかし専任医師は 1 名のみ、しかも初めてのポジションであり衆人環視のなか退路はありません。臨床検査医学出身の私が当院で医師が担う感染制御活動として考えたのは、臨床検査医学と感染制御活動の融合です。当院は感染症科がなく、病院感染症の管理や治療を感染制御室で行う方向に向かっています。このような状況では、感染制御部門と起炎菌の迅速検出や培養・薬剤感受性検査、そして検体検査を担当する臨床検査/病院検査部門とのコラボレーションが極めて重要と考えます。尾崎教授のご厚意で現在も微生物検査室の担当臨床検査専門医として検査室の運営にも関わらせていただき、関係を密に活動を展開しているところです。

病院内で感染が広がることを未然に防ぐ ICT 活動は、平常時はあまり注目されることのない仕事、注目されるのはアウトブレイクが起きた時、そんな縁の下から病院を支える仕事です。また、多職種との協力が不可欠であり、臨床検査医に求められる管理能力がここでも生きてきます。各医療施設それぞれの活動の仕方があるとは思いますが、私はこの領域には臨床検査医が病院運営に貢献できる未開拓の地が多く残されているように感じます。

(山梨大学医学部附属病院感染制御室 井上 修)

【編集後記】

日増しに秋の深まりを感じる季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

今号の巻頭言は、全国幹事の松永彰先生にご執筆いただき、共用基準範囲についてご解説いただきました。また、第 32 回臨床検査振興セミナーについて、渉外委員会委員長の小柴賢洋先生にご寄稿いただきました。会の雰囲気は伝わりやすい写真付きです。

今号では、臨床検査専門医試験の合格者の先生方のお名前も掲載させていただきました。合格おめでとうございます。「会員の声」にご寄稿いただいた、三枝淳先生、平山哲先生、井上修先生は、昨年の臨床検査専門医試験で合格された先生方です。例年、合格者の先生方には、「会員の声」ご寄稿のお願いを送付させていただいております。皆様の貴重なご意見をいただければ大変ありがたく存じます。

ご寄稿いただいた先生方に、心より厚く御礼を申し上げます。次号の発行は来年となります。これから年末にかけて、学会などでお忙しいことと存じますが、どうかご愛ください。

(編集主幹 東京大学医学部附属病院検査部 増田 亜希子)

日本臨床検査専門医会

会 長：佐守友博、副会長：小柴賢洋(渉外委員会委員長)、東條尚子

常任幹事：池田 均(資格審査・会則改定委員会委員長)、菊池春人(教育研修委員会委員長)、木村 聡(広報委員会委員長)、

佐藤麻子、佐藤尚武(保険点数委員会委員長)、三宅一徳(庶務・会計幹事)、宮地勇人(情報・出版委員会委員長)、米山彰子

全国幹事：五十嵐雅彦、上原由紀、大谷慎一、萱場広之、河野誠司、紀野修一、清水 力、ゞ谷直人、下 正宗、末広 寛、杉浦哲朗、藤原久美、

松永 彰、宮崎彩子、村上純子、村田哲也、柳原克紀、和田隆志、渡邊 卓

監 事：高木 康、土屋達行

情報・出版委員会：

委員長：宮地勇人

委 員：安東由喜雄、清水 力、信岡祐彦、福地邦彦、増田亜希子、盛田俊介

日本臨床検査専門医会事務局

〒101-0027 東京都千代田区神田平河町 1 番地 第 3 東ビル 908 号

TEL : 03-3864-0804 FAX : 03-5823-4110 E-mail : senmon-i@jacpl.org